

5.4 砂防事業の効果と土地利用の変遷

図 5.2 は、鹿島川扇状地における土地利用の変遷(4 時期)を示しています。昭和 28 年(1953)頃に森林であった中花見～大原町地区の広い範囲は、昭和 51 年(1976)には水田等が変わっています。これは、戦後の食糧難の時代に水田開発をした影響が考えられます。また戦後間もなくのその他の農用地は桑畑が多く占めていましたが、その後は水田に変わったところも多く、かつて盛んだった養蚕業が衰退した状況もうかがえます。

宅地をはじめとする建物用地は年を追うごとにその範囲を拡げ、平成 9 年(1997)から現在に

かけて、その傾向は市の中心部から北～北西方向への郊外付近や鹿島川沿いの大町温泉郷地区などで顕著です。

砂防施設の整備によって洪水氾濫等が減少すれば、その川沿いでは災害に対する安全性が増して新たな開発(土地利用の高度化)が進みます。また、その他の要因として平成 10 年(1998)長野オリンピックなどによる社会環境の変化もありましたが、鹿島川流域における砂防事業の効果として、宅地等の土地利用の高度化が進んだものと考えられます。

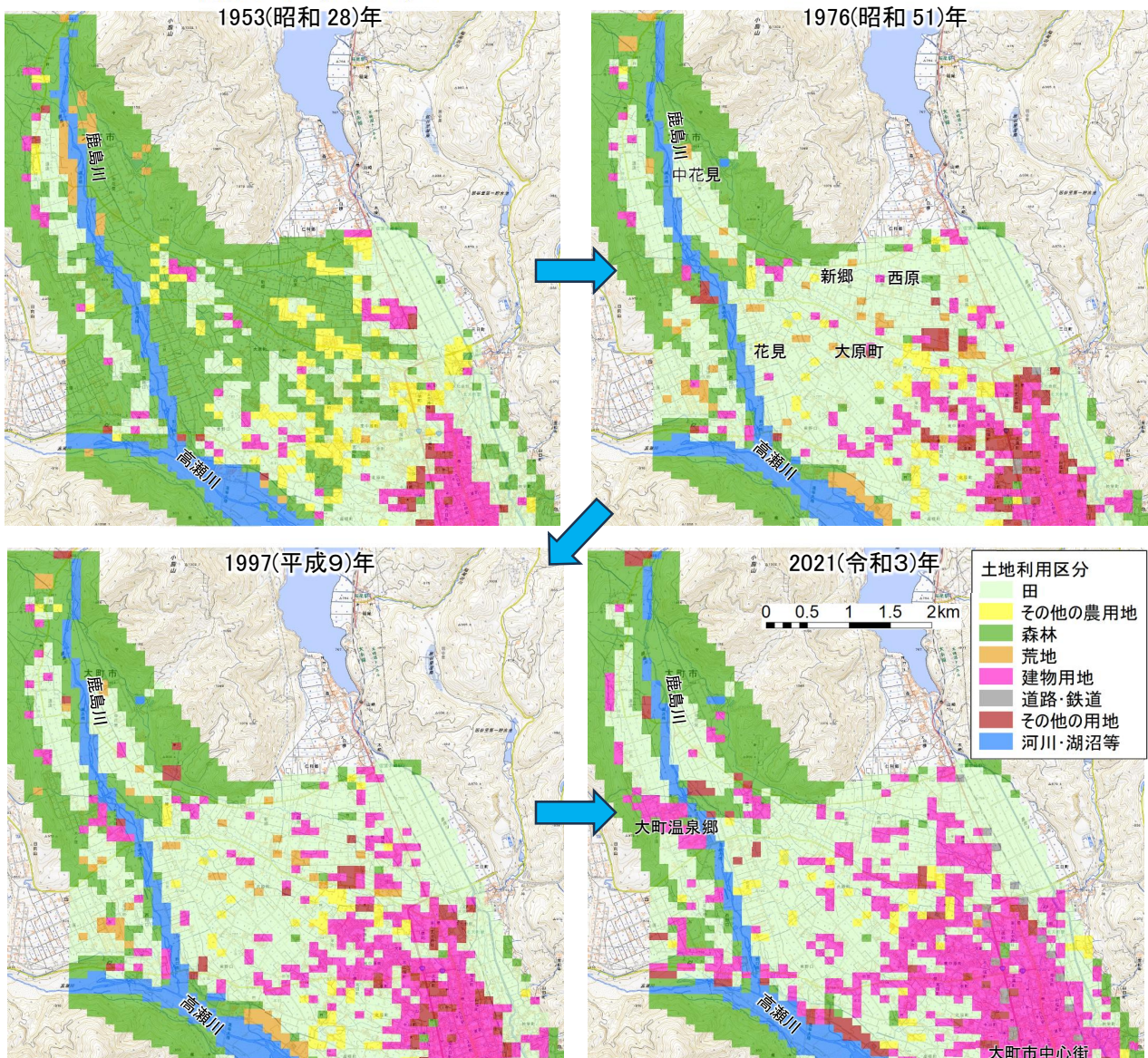


図 5.2 鹿島川扇状地における土地利用の変遷
背景は地理院地図「標準地図」、土地利用の 1953 年は旧版地形図を読み取り、
ほかは国土数値情報データを加工。

◎ 梓川・高瀬川流域の主な砂防関係施設

梓川・高瀬川流域の主な砂防施設を紹介します（赤＝松本砂防事務所、青＝長野県の施設）。

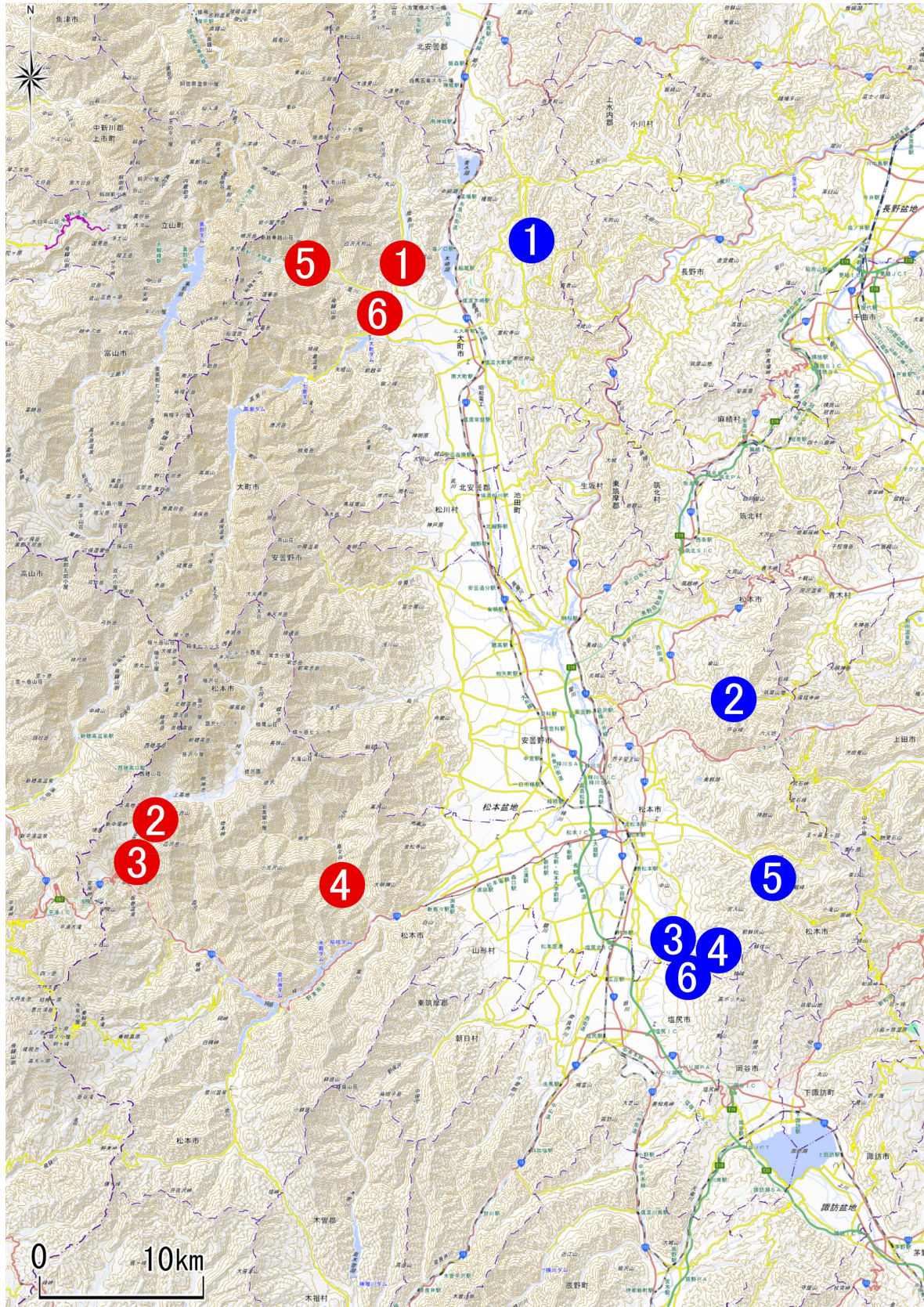


図 5.3 梓川・高瀬川流域の主な砂防施設（地理院地図「標準地図」に加筆）



写真 5.7 ① 鹿島川 大町市平
猫鼻砂防堰堤 (松本砂防事務所)
(松本砂防事務所 HP)



写真 5.8 ② 八右衛門沢 松本市安曇
八右衛門沢第2号堆積工 (松本砂防事務所)
(松本砂防事務所, 2024 b)

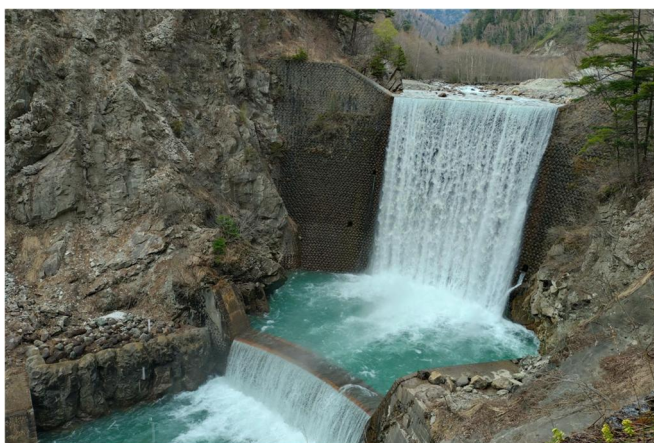


写真 5.9 ③ 梓川 松本市安曇
釜ヶ淵堰堤 (登録有形文化財) (松本砂防事務所)
(2024 年撮影)



写真 5.10 ④ 島々谷川 松本市安曇
島々谷第3号砂防堰堤 (松本砂防事務所)
(2024 年撮影)



写真 5.11 ⑤ 簗川 大町市平
簗川第1号砂防堰堤 (松本砂防事務所)
(松本砂防事務所, 2024 b)



写真 5.12 ⑥ 簗川 大町市平
簗川第2号床固工 (魚道の設置) (松本砂防事務所)
(松本砂防事務所, 2024 b)



写真 5.13 ① 家の上沢 大町市美麻
家の上沢砂防堰堤（長野県）
（長野県砂防課，2022）



写真 5.14 ② 月沢 松本市保福寺町
月沢砂防堰堤（長野県）
（長野県砂防課，2022）



写真 5.15 ③ 牛伏川 松本市内田
牛伏川第二号堰堤（登録有形文化財）（長野県）
（2024 年撮影）

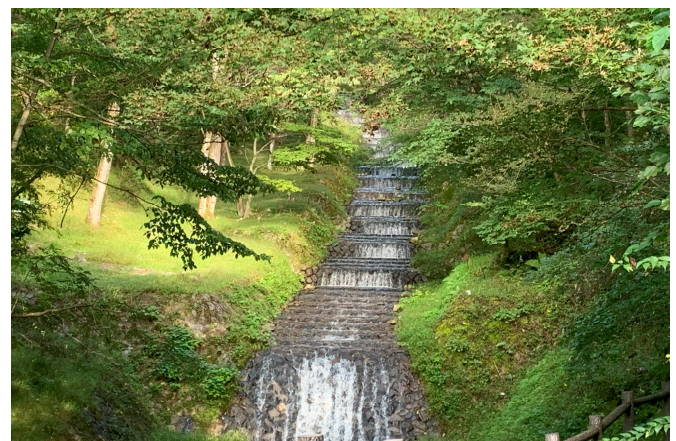


写真 5.16 ④ 牛伏川 松本市内田
牛伏川階段工（重要文化財）（長野県）
（2024 年撮影）



写真 5.17 ⑤ 薄川 松本市入山辺
宮海道堰堤（登録有形文化財）（長野県）
（山浦直人 2021 年撮影）



写真 5.18 ⑥ 牛伏川 松本市内田
牛伏寺砂防ダム（長野県）
（長野県松本建設事務所，1999）